

東日本大震災ドキュメンタリー映像
『被災地に来た若者たち』
上映会

7月17日（木）16：10～17：40

会場：太平館 A200教室



土井敏邦監督が震災後、宮城県仙台市にある被災者支援センター「エマオ」のボランティア活動に参加した青年たち取材し、被災地のボランティアを通じ成長していく様子を撮影したドキュメンタリー映像。

上映後、土井監督ご本人をはじめ、映像にも登場する桜美林学生の山田峻行さんと卒業生の笠原健太さん、そして震災直後から「エマオ」で被災地支援に大きく貢献された野田沢さんとのトークショーを予定。



土井敏邦

フリージャーナリスト。1985年以來、イスラエルやパレスチナの難民キャンプなどに滞在し、取材を続けている。震災後は被災地へ取材。『飯舘村 第一章・故郷を追われる村人たち』（2012年）では「ゆふいん文化・記録映画祭・第5回松川賞を受賞。

連絡先：基盤教育院サービス・ラーニング・センター（学術館1階）

e-mail: slc@obirin.ac.jp Tel: 042-797-9217



被災地は僕にとって“学び舎(まなびや)”だった。

【福田暢・大学受験を中断して来た被災地で、本当に学びたいことを発見】

感謝してもらい、感謝する。

それが涙が出るくらいうれしかった。

【山田峻行・ボランティア活動で“教師”への道を再確認し、大学に復学】



人が喜んでいいる顔を想像すると楽しくなる。

【笠原健太・大学を2年休学し、ボランティア活動に熱中】



自分の存在意味、生きる喜び、

生きる力をここで見出している気がする。

【渡辺真一・高校中退後に大検で入った大学にも馴染めず、ボランティアに】



“自分”と“社会”の接点、 3・11ボランティア活動を通して “生きる意味”を問い直す ——

—— 前作『異国に生きる—日本の中のビルマ人—』に続き、“個人と社会との関係”を問う問題作 ——

3・11の被災地に、「復興に役立ちたい」と全国から集まってきた若者たち。だが、途方もない規模の被害を前に、「助けに来た」という気負いは瓦解する。それでも、被災者たちの「ありがとう」の一言が若者たちの心を捉え、彼らを現場から離さない。

「自分は人の役に立ち、感謝される存在」なのだという自覚に、彼らは“生きている手応え”“自らの存在意義”を発見していく。



DVD ネット予約申し込み

【価格】個人：3,500円 / 学生：3,000円 / 団体：10,000円 (すべて税込)

予約申し込みは、下記内容を明記のうえメールアドレスまでお送り下さい。
ホームページからの予約もできます。

【住所】【氏名】【連絡先】【個人/学生/団体】【部数】【合計金額】

doitoshikuni@mail.goo.ne.jp



www.doi-toshikuni.net